

しょうれんじ 青蓮寺 観音像

国の重要文化財に指定

〔平〕 成25年6月19日、佐柿・青蓮寺所蔵の木造観音菩薩立像が

国の重要文化財に指定されました。町内の有形文化財が重要文化財に指定されるのは初めてのことです。

都ぶりの作風

国の文化審議会の調査によれば、この像は、9世紀末から10世紀初め（西暦900年前後、平安時代）の作ということ。町では最も古く、1100年程の歴史があります。



↑全身像

この頃の歴史上の出来事といえ、天神様で有名な菅原道真が901年に太宰権帥に左遷され、903年に大宰府で亡くなっています。また、905年からは「古今和歌集」の編集が始まっています。町内では、興道寺で発掘調査を行っている古代寺院「興道寺廃寺」が7世紀後半に建立され、10世紀初めまで存続したことが分かっています。観音像は古いだけでなく造形的にも優れており、「わかさ美浜町誌

拜む・描く」では「都ぶりの作風」であり、京都や奈良、近江等で制作されたであろうと解説されています。



↑後ろから



↑横から

— 国の文化審議会による像の評価 —

化仏を配した花形冠を戴く観音菩薩像で、針葉樹材の一木造、漆箔仕上（ほとんど剥落する）になる。大振りの目鼻立ち、胸腹の充実した肉取りや切れ味のよい翻波式衣文に平安初期風をとどめながら、彫り口が整理され、穏やかさが漂う点に次代様式の萌芽がうかがえ、九世紀末から十世紀初めの製作とみられる。小像ながら出来栄えにおいてこの時期を代表する水準を示す作例として評価される。

※化仏…仏像の頭部等に置かれる小型の仏像

※翻波式衣文…衣文は仏像の着衣の襞(ひだ)の表現のこと。翻波式は波が立ったような大きな衣文と小さな衣文を交互に重ねる様式



↑青蓮寺の外観

普光山青蓮寺とイチヨウの木

像を所蔵する普光山青蓮寺は真言宗の寺院で、靈龜2年(716年)に白山修験道の祖、泰澄が建立したと言ひ伝えられています(年代には諸説あり)。現在は国吉会館から徳賞寺へ向かう道の南側にありますが、かつては山城(国吉城址)の麓、「青蓮寺谷」にありました。寛永12年(1635年)、佐柿町奉行所(現在の若狭国吉城歴史資料館の場所)を建てる際に移転されたそうです。その後、現在の青蓮寺には小浜藩主・酒井忠直がイチヨウを手ずから植えたとされ、この木は町の天然記念物になっています。



↑町の天然記念物であるイチヨウの木

青蓮寺の指定文化財

他にも青蓮寺には町の指定文化財が5点、県指定文化財が1点あります。県指定文化財になっているのは五百体愛染明王像図。これは掛軸になった絵画で、小さな愛染明王が五百体描かれており、鎌倉時代の作です。この図と町指定文化財の青磁浮牡丹皿は、国吉城主粟屋勝久が天正元年(1570年)の越前朝倉氏攻めの際に一乗合から持ち帰ったものと「国吉籠城記」にも書かれています。

さらに青蓮

寺には中世の作の涅槃図、不動明王像図、十六善神像図が残っており、当時の寺の隆盛がしのべれます。



↑五百体愛染明王像図(県指定文化財)



↑浮牡丹皿(町指定文化財)



↑十六善神像図(町指定文化財)



↑不動明王像図(町指定文化財)



↑涅槃図(町指定文化財)

現在、青蓮寺の有形文化財は小浜市の福井県立若狭歴史民俗資料館に寄託されており、実物を見ることはできませんが、観音像の写真や五百体愛染明王像のレプリカ、また青磁浮牡丹皿については本物が若狭国吉城歴史資料館に展示されています。皆さんも佐柿へ足を伸ばされ、青蓮寺や若狭国吉城歴史資料館を散策されてはいかがでしょうか。

観音菩薩立像や青蓮寺の文化財をはじめとする町内の社寺の仏像・仏画については「わかさ美浜町誌 拝む・描く」に詳しく記述されていますのでぜひ一度ご覧ください。
※全巻購入の場合は割引価格になります。

購入のお問い合わせ
町文化財室(担当 北澤)
(金山14-1 美浜南小学校敷地内)
☎32-0027

